

なぜ韓国ドラマは「深い」のか 脚本家インタビュー本に見た神髄

毎日新聞 2024/8/30 14:00



韓国の人気ドラマ「梨泰院クラス」の撮影に使われた店舗入り口。ドラマのポスターが張られていた＝ソウル市で 2023 年 9 月 29 日午後 4 時 37 分、福岡静哉撮影

深い人間洞察、斬新なストーリー、鋭い社会批判……。多彩な魅力で世界にファンを広げる韓国ドラマの脚本は、どんな人々がどのように創り出しているのか。

そんな関心に応えてくれるインタビュー集が書籍化された。「韓国ドラマを深く面白くする 22 人の脚本家たち 『梨泰院クラス』から『私の解放日誌』まで」（クオン刊）。脚本家それぞれの流儀や苦悩、物語の着想などが率直に語られている。

作り手たちの素顔から見えてくる韓ドラの魅力の源泉について、翻訳にあたった岡崎暢子さんに聞いた。【聞き手・磯崎由美】

「人間の底力に胸が躍り出す」

——日本でも人気のあるドラマの題名が表紙にずらりと並んでいます。22 人も脚本家の声は、どのように集められたのですか。



インタビューに応じる翻訳家の岡崎暢子さん = 東京都千代田区で 2024 年 7 月 26 日、内藤絵美撮影

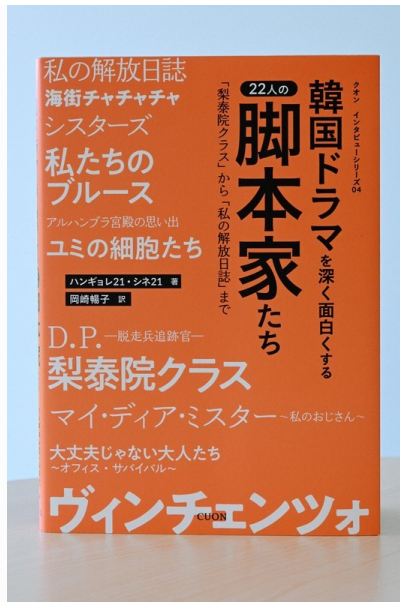
◆元になったのは、韓国の新聞社系週刊誌「ハンギョレ 21」と姉妹誌「シネ 21」に掲載されたロングインタビューです。これを東京の韓国コンテンツ専門出版社「クオン」が書籍化しました。邦訳にはクオンが運営する書店「チェッコリ」の翻訳スクールの生徒 10 人も協力しています。

初めは作品の話が中心かと思いましたが、読み進めると皆さん人生を丸ごと語っていて、**脚本家の人生物語**のようでもあります。

この本で興味を持った脚本家の作品を見ると、新たな魅力に出合えます。逆にドラマを見た後に読めば、**「あの物語の裏にこんな努力があったのか」**と、より深く味わう機会にもなると思います。

——翻訳を通して特に印象深かった点は。

◆どの脚本家も「今これを書くべきだ」という信念を持ち、徹底した取材やリサーチを基に、作品をととても丁寧に練り上げているところでは。



「韓国ドラマを深く面白くする 22 人の脚本家たち」 = 東京都千代田区で 2024 年 7 月 26 日、内藤絵美撮影

ミステリーの名作「怪物」のキム・スジン氏は「**成人失踪者は法的にただの家出人**」という**韓国の現状を告発**するため、警察組織などに膨大な取材をし、恋愛ものを求めていた制作側を説得しました。

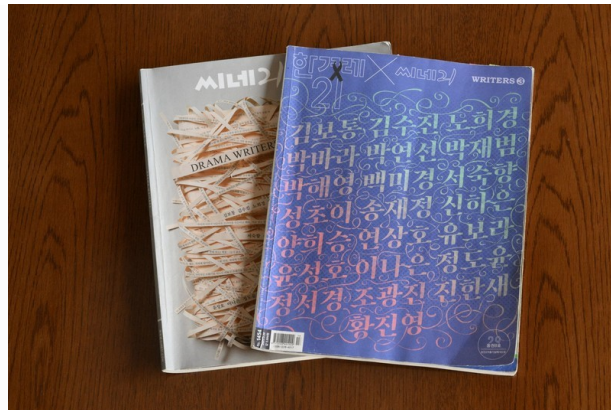
「魔女の法廷」で盗撮動画の流出や未成年性犯罪に斬り込んだチョン・ドユン氏は、脚本を書くたびに「本当にこの話を書く必要があるのか」と自問すると告白しています。

人気脚本家 **ノ・ヒギョン氏の話**にも驚かされました。主人公格のキャラクターが 14 人いる群像劇「私たちのブルース」では、舞台となる濟州島に数カ月滞在し、**市場や海で働く人にとことん話を聞いた**とのこと。**人々の生活に飛び込んでみると、人間の底力に胸が躍り出すのだ**と、彼女は言っています。

こうしたプロ意識に触れると、自分はどれほど真剣に仕事と向き合っているだろうかと、思わず考えさせられます。

突き詰めた「心理描写」

——感情の機微やセリフの名手たちも登場します。



脚本家のロングインタビューが掲載された雑誌「ハンギョレ 21」（右）と「シネ 21」 = 東京都千代田区で 2024 年 7 月 26 日、内藤絵美撮影

◆ **韓ドラは昔から心をつかむストーリー展開が魅力**でしたが、最近特に、心理描写に注力する傾向が強まっているようです。

背景には脚本家たちの人間への深い探究心がうかがえます。例えば、「マイ・ディア・ミスター」「私の解放日誌」のパク・ヘヨン氏。彼女は普段から自分の感情に向き合い、特にネガティブな気持ちになると、それがどの瞬間に生まれたかを突き詰めるそうです。そして書く際には「この人がなぜこのセリフを言うのか」を一行書いては考える、ということをして、本能的にしていると明かしています。

先述したノ・ヒギョン氏も「自分が物語を作っているとは考えていない。しかし人と人との関係や心のうちが知りたいという探究心がある」と言っています。

そんなノ・ヒギョン氏の脚本から学んだのが、若手のイ・ナウン氏です。劇的な展開を書けないことが弱点だと悩んでいたようですが、**登場人物のナレーションを駆使して心の動きで物語をけん引**し、「その年、私たちは」で若い視聴者に共感を広げました。彼女は「あまりにも、たわいもない話を扱っているのでは」と自問しては「ささいなことも物語になる」と自分を奮い立たせるそうです。

同居する社会批判とユーモア

——作り手の世代によっても作品の感性が異なるのでしょうか。

◆ **世代は韓国の人々を語る際、重要な要素**です。韓国は 1950 年代の朝鮮戦争以降、**高度成長**、**民主化**、**IMF（国際通貨基金）危機**と、短い期間にいくつもの社会の激動を経験しています。

特に今の 40 代以上の世代は、不安定な社会の中で青春を過ごしました。一方で、30 代半ば以下の若年層は民主化前の社会を知りません。**世代間の感覚の違いが日本より大きく、さまざまに影響を及ぼしている**ようです。

——**社会問題に鋭く斬り込んだ作品が多いのも、韓ドラの特徴**ですね。

◆ そうですね。でも社会批判一辺倒の重苦しさはなく、**ユーモア**や**希望を同居させたエンターテインメントに昇華させるのを得意**とする脚本家が多い印象があります。

その一人が、財閥や法曹界の腐敗を描いた「**ヴィンチェンツォ**」の**パク・ジェボム氏**。彼は韓国社会の現状に絶望した末に、**悪が悪を裁く過激な物語を作った**そうですが、**「メッセージだけならただのプロパガンダ、面白さのみでも空っぽの娯楽にすぎない」と、ど**
ん底からはい上がるコメディイの力を語っています。



セウォル号沈没事故の犠牲者を悼むメッセージが張られた慰霊碑 = 韓国・安山市
で 2024 年 4 月 16 日午後 2 時 41 分、日下部元美撮影

ユ・ボラ氏の「ただ愛する仲」は、2014年のセウォル号沈没事故や、彼女が高校生だった90年代に起きた聖水大橋崩落や三豊デパート崩壊事故がモチーフです。政府や関係者による納得できる事後收拾がなかったことが創作の動機になったそうですが、ドラマではトラウマを抱えながら生きていく人への希望を描いています。

ドラマって結局、社会が描かれるものですね。ラブコメにしても、恋愛だけにとどまらず、何らかの社会的課題を含んでいたりします。それで視聴者は自分たちの社会を見つめ直す契機にもなります。これは日本の（NHK連続テレビ小説）「虎に翼」の人気にも通じることかと思えます。

だからこそ、「この仕事には責任感が必要だ」と、「イルタ・スキャンダル」のヤン・ヒスン氏は言っています。ドラマは人々に影響を与える。それを作り手は自覚すべきだと。

にじむ日本作品の影響

——漫画の実写化については、日本に通じる部分はありますか。

◆ウェブトゥーン（ウェブ漫画）原作の作品が増えていますが、本書では、原作を大事にしているという話が随所に登場します。

「ユミの細胞たち」のソン・ジェジョン氏は原作を読み終えた瞬間、ドラマ化を決意しています。登場する人間の細胞のキャラクターは当初、俳優に全身タイツを着せて撮影する案だったようですが、彼女が「原作のタッチを生かすべきだ」と強く主張した結果、実写と3Dアニメを融合する斬新な作風になって成功しました。



「梨泰院クラス」の原作漫画と脚本を手がけたチョ・グアンジンさん ©キム・ジンス <ハンギョレ 21> 記者

また「梨泰院クラス」や「D.P.一脱走兵追跡官一」などは、制作側が漫画の原作者自身に脚本の執筆を依頼しています。「梨泰院クラス」のチョ・グアンジン氏は監督からセリフのうまさを褒められ、書いたことも学んだこともない脚本を1年がかりで書き上げたそうです。

——日本のコンテンツに影響を受けたという話も多いですね。

◆漫画でいえば「スラムダンク」「ONE PIECE」「H2」。映画では「Love Letter」「嫌われ松子の一生」、ドラマでは「エルピス—希望、あるいは災い」の名前が登場します。

私が初めて渡韓したのは96年で、同年代の学生たちから**スラムダンク**のことをたくさん聞かれた記憶があります。まだ日本文化が開放されていなかった時期ですが、当時の韓国にはそうしたコンテンツの作り手が乏しく、一方で日本のコンテンツは既に身近にあったんですね。



ソウル市内の書店に設けられた「スラムダンク」特設コーナー = 2023年4月11日午前11時、坂口裕彦撮影

今後は逆に、韓国ドラマに影響を受けた日本の若い世代がコンテンツを作っていくこともあるのではないのでしょうか。

「素質と夢」なくてもいい

——それぞれが**脚本家になるまでの経歴やルーティン**なども多彩ですね。

◆小さい頃から文章を書くのが好きだった人がいる一方で、「素質と夢の有無を、作家の成功条件と見なすべきではない」と話す人もいて、デビューまでのキャリアも多様ですね。ベテラン脚本家にも書けない時がある、といった赤裸々な告白も興味深いです。

ほとんどの脚本家が規則正しく朝から夕方まで作業して、プライベートを大事にするという話が多かったのは意外でした。韓国社会全体の働き方も、一昔前と変わってきましたし、作家も徹夜して書く時代ではなくなっているのでしょうか。

——おすすめのドラマをあえてひとつ選ぶなら？

◆仕事から帰宅した後に見るなら**「私の解放日誌」**。きょうもいろんなことに疲れた。でも、つらいのは自分だけじゃない。そんな気持ちになれて癒やされます。**遠距離通勤を続ける非正規雇用の女性が自分のことを、牛追いに終われるように自分を前に歩かせていると表現する**のですが、会社勤めをしていた頃に見ていたら、号泣したでしょう。

このドラマの主人公は3人のきょうだい。それぞれに生きるのが不器用なんですけど、**ダメな人がちょっとずつ前進するところがリアルで、その「ちょっと」に、ものすごく光を感じる**んです。

そんなドラマに出合えるのも、韓ドラの奥深さですね。

おかざき・のぶこ

韓日翻訳・編集者。1973年生まれ。アルク「韓国語ジャーナル」、キネマ旬報社「韓国テレビドラマコレクション」の編集長などを経て、各種メディアで翻訳に携わる。訳書に「あやうく一生懸命生きる場所だった」（ダイヤモンド社）など。